

自立活動だより

令和6年10月31日発行
佐世保特別支援学校 自立活動部

夏の暑さが落ち着き、秋の涼しさを感じる季節になりました。学校行事も盛り上がりを見せています。

さて、夏季休業中に外部専門家をお招きして実践力向上のための研修会を行いました。摂食、歩行、見え方など、様々な分野の先生方から講演や助言をいただき、今後の指導実践の指針となりました。

今回は研修会の概要と、あたご中学部、わかくす中学部の自立活動の実践について紹介します。

Ⅰ 専門家を招いての研修会

訪問看護リハビリステーションエール理学療法士

下釜 豊広 先生

歩行が不安定な児童生徒の指導についての研修でした。歩行の基本について講演していただき、実際の事例を基に歩行分析を行い、意見交換をしました。最後には歩行に関する様々な指導方法を教えていただきました。

※写真は仕事の合間に簡単にできるストレッチを教えてもらっている様子です。



長崎国際大学 柳 智盛 先生

気持ちのコントロールについての研修でした。気持ちが不安定な児童生徒への対応について意見交換を行ったり、自閉スペクトラム症の児童生徒の理解や指導について、助言をいただいたりしました。見通しをもち、安心して授業や学校生活に参加できることの大切さや、そのためにはどのような手立てが必要なのかなど、教えていただきました。

尚時堂オプトメトリスト 中村 尚広 先生

見え方とそれに応じた指導についての研修でした。目の動きを見る検査についての話では、速い動きに対応できるか、見続けること、上下や左右の動きなど、個人によって眼球の運動に得意不得意があることが分かりました。また、苦手な動きもトレーニングによって克服できることや、そのための方法などを紹介していただきました。多くのトレーニングの中から、苦手な動きを克服するためのものを選択し、実践していくことで目の機能を高めていくことができることを学びました。

2 中学部における自立活動の実践

あたご(知的障害教育部門) 中学部

体の使い方がうまくなること、指示に従って行動できるようになることを目標に、サーキットトレーニングを行っています。指示を聞いて、指示どおりに動くことに少しずつ慣れてきました。体を動かしながらの活動が好きな生徒は、楽しんで学習に取り組んでいます。



友達とのよりよい関わり方を身に付けることを目標に、二人組でのボール運びなどの協力作業を行っています。初めはぎこちなかった言葉での伝え合いが、今では自然に「ありがとう」「いいよ」など伝え合えるようになりました。

集中力や手指の巧緻性を高めることを目標に、ペグ刺しを行っています。繰り返し行っていくことで、手先が器用になりました。また、集中して活動に取り組める時間も増えてきました。他にも、ビーズの仕分けにも取り組んでいます。



わかくす(肢体不自由教育部門) 中学部



好きなもの、欲しいものを伝える学習。いろんな選択肢の中から自分の欲しいものを見付けて、触れ続けることで伝えています。



カードで示された場所まで行く学習。カードの場所を覚えてスムーズに歩いて行くことができました。



手を着いた膝立ちで、頭部を起こして保持する学習。鏡など、指示されたものに顔や視線を向けたり、触れられた身体の部位に力を入れたりするように頑張っています。



指示された数字に目を向けて視線で伝える学習。指示された数字にしっかり視線を向けて相手に伝えることができました。

伝え方(話し方、書き方)について考える学習。相手の気持ちを考えて言葉で伝えたり、自分の考えを整理して伝えたりしています。



適切な力を入れて座位姿勢を保つ学習。力を入れる部位、抜く部位に注意を向けて姿勢の保持に取り組んでいます。

今回は、佐世保特別支援学校における自立活動部が主催する研修会や、中学部の自立活動の実践について紹介しました。今後も校内、校外の先生方の実践力につながるような研修の機会を設定し、児童生徒が学習や生活における困りごとについて、改善、克服に向かえるよう、指導、支援をしていきます。